

今回は、10月24、25日に行われました The 15th Scientific Meeting of Asian Academy of Craniomandibular Disorders について日本大学松戸歯学部の大久保昌和先生に、報告していただきます。

The 15th Scientific Meeting of Asian Academy of Craniomandibular Disorders 参加報告

日本大学松戸歯学部 大久保昌和

The 15th Scientific Meeting of Asian Academy of Craniomandibular Disorders (以下: AACMD) が2015年10月24-25日に Kyungpook National University (慶北大学校) の AACMD President Jae-Kap Choi 先生のお膝元、韓国の大邱で開催された。今大会の前日に行われた理事会において韓国、台湾、日本(日本口腔顔面痛学会がスポンサー)の主要メンバーに加えて、インドネシアとフィリピンの加入が承認され AACMD のメンバーに加わった。



学会会場 Kyungpook National University
(慶北大学校)



会場のメインエントランスにて

学術大会は The path to overcoming “Non-odontogenic toothache” (非歯原性歯痛克服への道) というメインテーマで Youn-Joong Kim プログラム責任者により4つのシンポジウムと2つの基調講演、特別講演、そしてポスターコンペティションからなるプログラムが企画され、国連の分類で東アジアに属する韓国、台湾、日本、中国、東南アジアに属するインドネシア、フィリピン、タイ、マレーシアの東南アジア諸国、さらに北アメリカの9か国から15人のスピーカーを招いて、最新の基礎研究から臨床管理まで American Academy of Orofacial Pain の学術大会に負けずとも劣らないすばらしい内容であった。



ホールでの懇談の様子



シンポジウムⅡのパネルディスカッション

日本からは川崎市立井田病院の村岡渡先生、日本大学歯学部生理学講座の篠田雅路先生、と口腔診断学講座の岡田明子先生がシンポジストとして講演した。

基調講演は IASP OFP-SIG President (国際疼痛学会口腔顔面痛グループ会長) を務める Rutgers State University of New Jersey(ラトガース・ニュージャージー州立大学)の Prof. Rafael Benoliel が Non-odontogenic Toothache? と Painful and non-painful disorders of the TMJ という内容で2日間にわたり講演を行った。



基調講演の座長を務める佐々木理事長



ニュージャージー州立大学 Prof. Rafael Benoliel による講演

ポスターコンペティションでは神経障害性疼痛の診断のための陽性感覚障害の検査法について発表した和嶋浩一先生(慶應義塾大学)と高齢者の咀嚼機能に関わる機能的脳画像研究について発表した台湾の Chia-Shu Lin 先生(National Yang-Ming University: 国立陽明大学)に Best Award が送られた。



ポスターコンペティションで Best Award を受賞した和嶋先生と AACMD President Choi



Mahidol University (Thailand)
Somsak Mitirattanakul 先生

さて、次回の 16th AACMD は、2016年9月24-25日の日程で世界中から疼痛研究者と臨床医が集まる 16th World Congress on Pain (国際疼痛学会主催9月26-30日)の開催にあわせて、日本口腔顔面痛学会と共催で、横浜で開催される予定である。詳しくは日本口腔顔面痛学会のホームページを参照されたい。